

総合的な学習の時間「ふるさと科」

「全校縦割り班学習（第１～９学年）防災教育Ⅱ」

１ 令和６年度の防災教育のねらい

学校教育活動中における災害発生時の命を守る行動を考えることを通して、「避難行動」に着目し、児童生徒、教師がそれぞれの立場で、命を守るための安全な避難行動の最適解を見いだすことができる。

２ 防災教育Ⅱ（本時：様々な状況下における避難行動）のねらい

- ・自身の避難の様子を振り返り、安全に避難するためには、自らの安全を確保しつつ、二次災害も想定しながら避難行動するとよいということに気付く。
- ・自然災害を自分事として捉え、想定された場面から、安全に避難するための行動について考えることができる。

３ めざす児童生徒の姿

１・２年	３・４年	５・６年	７・８・９年
安全に避難するために大切な行動について理解するとともに、場や状況に応じて、どうすれば安全に避難できるか、考えようとすることができる。	安全に避難するために大切な行動について理解するとともに、場や状況に応じて、どうすれば全員で安全に避難できるかを考え、自分の意見を仲間に伝えようとすることができる。	場や状況に応じて、どうすれば全員で安全に避難できるかを考え、「声を掛け合う」「危険個所に注意する」など、具体的な方法等を見だし、行動に移すことができる。	・下学年の避難の様子を自分の考えと比べながら捉え、よりよい方法等を考えたり、伝えたりすることができる。 ・二次災害を想定し、自身の役割を明確にし、全員で安全に避難する方法を考えることができる。

４ 本時の評価規準 【思考・判断・表現】

- （１・２年） 安全な避難方法について考えている。
- （３・４年） 状況を考え、安全な避難方法について考えている。
- （５・６年） 二次災害を想定し、安全な避難方法について考えている。
- （７・８・９年） 二次災害を想定し、自身の役割を明確にして、安全な避難方法について考えている。

（発言、行動）

5 本時の展開

時間	学習内容	留意点 子どもの動き	留意点 教師の動き
10:30	○本時の想定とめざす姿を説明する。(生徒 A)		
10:32	<想定> 13 時 27 分、うすずみ班掃除の開始の挨拶をしている時に、地震が発生した。避難を開始したところ、避難中に 2 回目の緊急地震速報が流れ、地震が起きた。 1 村岡先生より Q 避難中に 2 回目の緊急地震速報が流れ、地震が起きた場合、どのようなことに気を付けて避難すればよいだろうか。 1～6 年生・8 年生 ○2 回目の地震発生時の身の安全の守り方を確認した上で、避難行動について各班で意見を出し合い、班の避難方法を決める。 - 被害がもっと大きくなっているから、より周りに注意して避難したい。(2 年) - その場で待つことも視野に入れて避難したい。(6 年) ○各班の避難方法を交流する。(各班 1 分ずつ：6 年生) 7 年生・9 年生 ○1 回目の地震発生時の危険個所にトラップを設置する。 (1 回目の分のみ) ※校内マップ使用 ○2 回目の地震でより被害が大きくなり、被害が拡大する場所を想定する。そこから、1～6 年生が避難する時のポイントを押さえる。 ○指定された教室へ移動する。	【前期課程】 - うすずみ班に分かれ、校内マップに気を付けることを具体的に記入していく。(進行：6 年、書記：8 年) 【後期課程】 - うすずみ班ごとに、指定した階にトラップを仕掛ける。 - 各教室に移動し 2 回目の地震でトラップを仕掛ける場所、撮影ポイント(視点)を確認し合う。 【視点】地震発生状況による避難行動の変化	【前期課程】 2 回目の地震から避難行動を考える際に、児童の発言に対して、「なぜそのような行動をするのか。」と必要に応じて具体的に問い返す。 【後期課程】 - 生徒が、撮影ポイント(視点)を押さえられるように、2 回目の地震の仕掛ける場所を確認し、撮影ポイントを示す。
10:52	音楽室(マリー) 学習室 1(たんぼぼ) 図書室(サニー)		
10:57	2 地震発生、避難行動を開始する ○地震発生(校内放送で緊急地震速報、地震音を流す)、身を守る姿勢をとる。 ○各班で考えた避難行動を開始する。	考えた避難行動をもとに運動場まで避難する。	教員も各配置場所に付き、児童生徒の様子を見守る。
10:59	⇒2 分後、2 回目の緊急地震速報が鳴り、地震発生。	後期課程生徒は 2 回目の地震発生の想定に合わせてトラップを仕掛ける。	話を深めるために、「その行動が本当に命を守る行動につながるのか。」を必要に応じて問いかける。
11:00	・高等部は、2 回目の地震の最中に被害が拡大しそうな場所にトラップを追加する。 ○2 回目の地震が治まり、各班で避難行動を開始する。 身の安全を守りながら運動場まで避難→体育館へ移動する。	- 前期課程→避難の際に変化した行動は何か考える。 - 後期課程→【視点】をもとに避難行動のよい点、改善点を伝える。 2 回の地震発生時における避難行動の変化が見られない場合、事前に避難行動した後期課程の避難の様子を動画を示す。	2 回の地震発生時における避難行動の変化が見られない場合、事前に避難行動した後期課程の避難の様子を動画を示すように促す。
11:20	3 各班で振り返り ○体育館に到着した班から、各班で 2 つのグループに分かれ避難動画を見て、振り返りをする。 Q 1 回目の地震の避難行動と 2 回目の地震の避難行動で、どんな変化があったか。 2 回目の地震で校舎の被害が拡大していたから、いつも以上に周りに注意して避難できた。 4 感想交流(進行：生徒 B) 2 回目の緊急地震速報が鳴ったときに、まずその場所で身の安全を守る行動をとることができたし、二回目の地震でもっと校舎の崩れが見られたから、より周りを気にして避難することができた。また、8 年生の話を聞いて、教室にとどまるという考えがあることがわかった。		
11:23	5 村岡先生よりご指導 ○避難中の各班の動きから、アドバイスをもらう。		
11:33	6 あいさつ(生徒 C)		

第1・2学年 図画工作科 学習指導案

1 単元名・題材名 ならべて ならべて

2 単元について

本題材は、学習指導要領（第1学年及び第2学年）「A表現」（1）ア『造形遊びをする活動を通して、身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に造形的な活動を思い付くことや、感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するかについて考えること。』という内容に基づいて設定されている。

造形遊びは、「想像していたことをかく」、「使うものをつくる」などの主題や内容をあらかじめ決めるものではなく、材料や場所、空間などと出会い、自分で目的を見付けて発展させていく児童主体の活動である。児童たちは、つくる過程そのものを楽しむ中で「つくり、つくりかえ、つくる」という学びの過程を経験している。つくっていくうちに満足することもあるが、途中で考えが変わってつくりかえたり、試したり再構築したりしながら、どうすれば実現したい思いやイメージを表すことができるか、探究し続けている。造形遊びにおいて、自分で材料に触れ、活動していく中でイメージを確立していくこと、自分でやりたいことを見付けていくことは、自己決定力・自己判断力を培うことにもつながる。本単元では、身の周りにある物（ペットボトルのキャップ）を並べたり、つないだり、積んだりする中で、生まれる形や色などの造形的な面白さを感じ、工夫しながら自ら活動を展開していく姿を目指す。

前期に扱った「カラフルいろみず」という造形遊びの題材では、色水をつくったり並べたりする時の感覚や行為を通していろいろな色や形に気付く経験をしてきた。今回は、その経験を生かして色や形を捉えることはもちろん、「並べる」「積む」「つなげる」という行為の中で形の造形的な面白さを感じ取りながら、活動を工夫して発展していく力を育てたい。また、思い付いた活動を肯定的に受け止め、結果にこだわらずに「つくりながら試す」というよさを広げていきたい。

さらに、造形遊びでの発想を広げるためにタブレットを活用する。時間と共に変化していく作品の中で残しておきたいお気に入りの形を画像で残しておく。また、振り返りの場でも変化した作品のイメージを共有し、仲間の視点やそのときの思いなどにも気付けるようにする。

3 児童の実態

4 本時のねらい

身の回りにある材料の形や色などを基に造形的な活動を思い付き、感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するかについて考えることができる。

5 本時の展開（1／1）

	学習活動	指導・援助
導入	1 本時の活動の見通しをもつ。 ・ペットボトルのキャップがたくさんあるね。どうやって並べようかな。 ・上に積んだらどんな形になりそうかな。	・集めた材料の種類、色などをあらかじめ確認しておく。 ・活動場所の状況を確認め、十分な広さを確保し、楽しく安全に活動できるようにする。
展開	2 本時のめあてを確かめる かたちやいろのくみあわせをかんがえて、たのしくならべよう。 3 材料を選び、並べ方を考え活動を広げる。 ・キャップを色別にして順番に並べたら楽しいな。 ・丸をたくさん作ってシャボン玉みたいにしたいな。 ・形をずらしたりギザギザにしたりしたら面白い模様になるね。 4 より楽しい並び方になるように工夫する。 ・くねくねした道をつくっていたら隣の子と近くなったから合体してつないでみたよ。 ・波みたいな建物になるように工夫して積んでみたよ。 5 つくったお気に入りの形を、タブレットで撮影する。 ・途中の形がおもしろいから、撮っておこう。どうやって変わっていくのか楽しみだな。 ・全体が入るように少し遠くから撮ってみたよ。	・色に注目して並べた作品と形に注目して並べた作品など、考えるヒントになるような提示資料を用意しておく。 ・材料での表し方を工夫し、形や色への気付きを価値付ける。 ・途中で中間交流の時間を取り、仲間の活動を見にいく。 ・異なる並び方の組み合わせ、場所の生かし方など、児童の工夫を具体的に褒める声掛けをしたり、紹介したりする。 ・タブレットで作品を撮影するのは、途中段階でもよい。制作途中の記録として残してもよいことを伝える。
終末	6 並べた作品を鑑賞し合って、感じたことや気づいたことを交流する。 ・丸くなるように並べて色をだんだんと変えてみたら、花火みたいな感じになってきれいだったよ。 ・高くなるように積み上げてみたらお城みたいになったよ。 ・キャップの色を分けて並べたら、川が広がるみたいになったよ。	・並べた作品を見合い、よさや面白さについて交流する場を設定する。
	【評価規準】思考・判断・表現 いろいろな形や色を基に自分のイメージをもちながら、身の回りにある材料の形や色などを基に造形的な活動を思い付き、感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するかについて考えている。（発言・作品・行動観察）	

第3・4学年 総合的な学習の時間「ふるさと科」 学習指導案

1 単元名・題材名 「根尾の産業」～根尾の特産物の魅力を発信しよう～

2 単元について

今年度の3・4年生総合的な学習の時間「ふるさと科」では、根尾地域の産業を取り扱い、学習を進めている。最初、根尾地域の産業の現状について話題にした。その際、児童からは「根尾は淡墨桜の時期は多くの観光客が来るが、他の時期はあまり観光客が来たという実感がない。」という意見が出た。その上で、「どの時期でも根尾に観光客が来て、活気ある地域にしたい。」と考えをもつ児童が多くいることが分かった。そこで、「根尾地域にどの時期でも観光客が来るようにするにはどうしたら良いか。」という課題を立てた【課題の設定】。これに対し、「根尾地域の魅力を、根尾について知らない人たちに伝えたい。」と、児童は考えるようになった。しかし、まだ根尾地域の産業について、よく知らないという児童もいた。

このような児童の実態の下、まずは根尾地域の産業について知ることから始めた。本学級には、茶畑を所有している家庭の児童がいることが分かった。また、根尾地域の道の駅で特産物を扱っていることを知っている児童がいることも分かった。そこで、茶畑や道の駅での見学を実施した。また、道の駅の特産物を調べる中で、アマゴを使った商品が根尾地域の企業（根尾淡水）で生産されていることを知り、その見学も行った。他にも、地域の方との連携により、淡墨桜の保護活動として行われている「淡墨桜の種拾い活動」に参加したり、3年生社会科学習の「農家の仕事」に関連付けて「にんにく収穫活動」を体験したりしてきた【情報の収集】。

ここまでの学習をもとに、どのように根尾地域の魅力を発信していくか話し合ったところ、児童からは「パンフレットにまとめて、根尾のことを知らない人に渡したい。」という意見が挙がった。そこで、「パンフレットにどのような内容を入れれば、根尾を知らない人に魅力が伝わるだろうか。」と問いかけ、個人で考えるようにした。その後、全体交流を行い、考えを整理したところ、「根尾の特産物」や「淡墨桜などの観光」をテーマとしてパンフレット作りを行っていくとよいのではないかと考えた【整理・分析】。こういった仮説をもとに、パンフレット作りを始めた【まとめ・表現】。活動を行う中で、自分と考えが似ていると感じた仲間がいればチームを組んで取り組んだり、個人で考えたいという児童は一人で製作したりするなど、児童一人一人の目標に応じて活動形態を決めて行うこととした。また、パンフレットを製作する中で、「必要となる情報を再収集したい。」と考える児童も見られたので、それぞれのチームに応じた見学先を設定して情報収集できるようにした【情報の収集】。

本時は、「根尾のことを知らない人に興味をもってもらえるパンフレットにするには、どのように改善していくとよいか。」という課題の下、これまでに製作してきたパンフレットを検討する。チームや個人で作成したパンフレットを根尾の産業に携わる人に見てもらい、より良いものにするためのさまざまな意見をいただく。そして、それをもとに後半の製作活動を行っていくにあたり、どのようなことを取り組んでみたいのか、個人で考えるようにする【課題の設定】。そうすることで、これまで以上に自分自身ができそうなことを考え、主体的に地域の魅力発信に取り組んでいこうとする態度を育てたい。

3 児童の実態

4 本時のねらい

根尾の特産物などの内容の興味深さに着目して、作成したパンフレットについて意見交流する活動を通して、根尾の産業に携わる人の視点を踏まえるとさらに改善できるということに気付き、今後のパンフレット製作活動でどのようなことに取り組んでいきたいか、自分の考えをもつことができる。

5 本時の展開（10/18）

	学習活動	指導・援助
導入	1 これまでに行ってきたパンフレット製作活動を振り返り、本時の課題を確認する。 ・これまでにどのような内容にすると良いのかを決め、パンフレット作りを行ってきた。 ・今日は地域の方から意見をもらい、根尾のことを知らない人に興味をもってもらえるようなパンフレットを作りたい。 根尾のことを知らない人に興味をもってもらえるパンフレットにするには、どのように改善していくとよいか。	・根尾の産業に携わる方々に事前にパンフレットを渡し、意見をもって参加していただけるようにする。もし、事前に児童から欲しい資料等の要望がある場合、準備していただく。
展開	2 チームや個人それぞれのこれまでの作成でのこだわりを伝え、根尾の産業に携わる方からアドバイスを聞き、それに対する考えを話す。 ※→根尾の産業に携る方のアドバイス ⇒アドバイスを受けた児童の考え 【根尾特産の食材パンフレット】 ・私たちは、食材の魅力が伝わるよう、作り方や特徴を載せてみた。また、それを使った料理の紹介もしてみた。他にも、道の駅で買えるということを紹介した。 →私たちがにんにくを作っているときのこだわりを載せてもらえると、お客さんにより魅力が伝わると思う。 →1年間でいつできる作物かを伝えようと、色々な時期に来てもらえると思う。 →パンフレットをどこに置くのか考えておくと、遠くからお客さんに来てもらえるのではないかな。 ⇒パンフレットは、樽見鉄道の駅やモレラ岐阜に置くことを考えています。 【根尾の観光パンフレット】 ・私たちは、根尾の観光をテーマにガイドブックを作ってみた。淡墨桜はなぜ有名なのか、根尾でおいしいご飯を食べられる場所はどこなのかなど、行くと良い場所を紹介した。 →淡墨桜の魅力を伝えるために、「もとすをともしプロジェクト」について紹介し、淡墨桜が咲く時期以外にも来てもらえるようにすると良いと思う。 →飲食店のおすすめのメニューを紹介してもらえると、それを目当てにお客さんが来てくれるかもしれない。 ⇒今後、飲食店に見学に行き、根尾の食材でどのようなものを使っているか調べたい。	・チームや個人のこだわりをあらかじめまとめておき、主張点が明確になるようにする。 ・ワークシートを使用し、地域の方の意見をまとめられるようにする。 ・2人の教師でどのチームや個人の意見交流の様子を見届けるか分担し、意見交流のポイントを聞き取る。また、それを板書にまとめ、ワークシートに今後のパンフレット製作活動への思いを書くための参考にできるようにする。
終末	3 意見交流を通して気付いた、今後のパンフレット製作活動で行ってみたいことをワークシートに書き、発表する。（振り返り） 【根尾特産の食材パンフレット】の例 今日の話し合いを通して、特産物の紹介だけでなく、生産者のこだわりを載せるともっと魅力が伝わると思った。また、1年通してお客さんに来てもらうためにも、どの時期にどの特産物が売られているのかを紹介するとよいと思った。他にも、根尾のことを知らない人に知ってもらうためにも、樽見鉄道の駅やモレラ岐阜などの人が集まる場所にパンフレットを置いたり、自分もパンフレットを配りながら根尾の魅力を紹介したりしたいと思った。	【評価規準】主体的に学習に取り組む態度 意見交流をもとに、今後のパンフレット製作活動で行ってみたい自分の考えをまとめている。 （発言、ワークシート）

第5・6学年 総合的な学習の時間「ふるさと科」 学習指導案

1 単元名・題材名 「根尾の歴史」～根尾の観光資源の歴史を知り、将来の活用方法を考えよう～

2 単元について

今年度の5・6年生総合的な学習の時間「ふるさと科」では、「根尾地域の歴史」をテーマとして、学習を進めている。年度のはじめに、根尾地域の歴史について、児童がどのようなことをどの程度知っているのか確かめたところ、「淡墨桜」「濃尾地震」「うすずみ温泉」「能郷の能狂言」「御姥様の水」等、これまで学校や地域での生活の中で、慣れ親しんできたことを、基礎的な知識として身に付けていることがわかった。また児童は、体験学習を通して、より深く根尾の歴史を知り、学んだことを地域の方に広めていきたいという願いをもっていることが分かった。

このような児童の実態をもとに、根尾地域の史跡や観光資源を巡り、取材して学んだことを、それぞれの方法でまとめ、地域へ発信する「根尾の歴史ツアー」を構想した【課題の設定】。児童たちそれぞれの興味に基づいて調べ学習を進める中で、令和5年4月から休業している「うすずみ温泉」の歴史に興味をもつ児童が出てきた。そこで、根尾地域の活性化のために尽力されている、根尾地域活性化推進協議会の坂下さんをゲストティーチャーとして招き、「根尾地域の観光資源の現状と将来に向けて」というテーマで話をしていただき、児童が「うすずみ温泉」をはじめとする根尾の観光資源の歴史を知り、根尾の将来のために自分たちができることはないか考える場を設定した。その後、「うすずみ温泉」がどのような地域の願いを受けて開館し、どういう経緯で休業に至ったのか調べる中で、根尾地域だけでなく、多くの人が「うすずみ温泉」の再開を願っていることを知った【情報の収集】。そして、「根尾の大切な観光資源の一つであった「うすずみ温泉」を再開するために自分たちにできることはないだろうか。」という新たな問いが児童の中から生まれ、「うすずみ温泉1日復活DAYプロジェクト」を立ち上げることとなった。このように、本単元の活動は、児童が歴史を学ぶ中で、地域の未来のために自分たちにできることは何かを問い直す活動へと変遷していった【課題の再設定】。

その後児童は、根尾地域活性化推進協議会の方々と連携すると共に、旧「うすずみ温泉」施設跡地を見学したり、その施設を今でも活用する方々にインタビューしたりする活動を通して、「うすずみ温泉1日復活DAYプロジェクト」を成功させるための具体的な方法を考えてきた【情報の収集、整理・分析】。

本時では、根尾地域活性化推進協議会の方々を外部講師として招き、これまでに考えてきた「うすずみ温泉1日復活DAYプロジェクト」を実現するための考えにアドバイスをいただく（前時までに、外部講師に自分たちの考えを提案しておく）。【整理・分析、まとめ・表現】。本時前段では、提案内容へのアドバイスをいただいた後、プロジェクト実現に向けた考えを具体的な活動にするために、外部講師と対話を行う。本時終末には、対話を通してグループごとに練り直した案を交流し、外部講師に再評価していただく。本時を通して、児童の考えに外部講師の案を重ね深めていくことで、プロジェクト実現に向けた活動内容を、より具体的なものとしていきたい。

3 児童の実態

4 本時のねらい

「うすずみ温泉1日復活DAYプロジェクト」を実現するための考えを、外部講師と対話し、練り直すことを通して、実現可能性や有効性の視点をもとに、地域活性化について考え、今後の具体的な活動内容を見いだすことができる。

5 本時の展開（6／10）

	学習活動	指導・援助
導入	1 課題を確認する 1日復活DAY実現に向けて、根尾地域活性化推進協議会の 方々の意見をいただき、具体的な活動内容を考えよう。	・本時までのインタビュー活動で地域の方の 願いや想いを聞き、それをもとに考えた 自分たちの考えを前時までに外部講師 に提案する。
展開1	2 外部講師より、前時までに提案した考えへのアドバイスをいただく。 ・私たちが授業で育てたサツマイモを復活DAYで販売するのはどうだろう。 →それは可能だよ。価格の設定と収益金の活用方法を考えることが大切だね。 ・高等部の生徒が育てた根尾米を一部活用させてもらって、弁当を販売するのは どうだろう。 →食品の販売には資格をもった人の助けが必要だよ。 ・ふるさと科で学んだ根尾の良さを伝えるブースを作れば多くの人が集まるかも。 →復活DAYに来てくれる人はそもそも根尾の良さを知っているのでは？ ・根尾学園の活動、例えばオカリナ演奏を復活DAYで披露するのはどうだろう。 →復活DAYに向けた宣伝でそれは有効だね。発信方法を考えないといけないよ。 紙？インスタ？ホームページ？ ・地域の施設、うすずみ公園や道の駅、樽見鉄道と一緒にコラボできるといいね。 →そのためにはそれらの施設と連携することが必要だね。協力できるかも。 →「うすずみ温泉」の周りには森林セラピーができるルートがあるよ。そのツアー と一緒に企画してもいいかもしれないね。	※地域の方の願いや想い 温泉は地域の宝。是非復活させたい。温泉 復活はきっと活気をもたらしてくれる はず。温泉復活を含め、地域の活性化 のために、根尾学園の活動は大きな力に なると思う。学校で学んだことを地域に 還元することが、復活DAY実現につな がるとよい。根尾学園と地域が連携して 一緒に活動していきたい。
展開2	3 アドバイスをもとに、「1日復活DAY」の案をグループで練り直す。 【視点】実現可能性 有効性 ・サツマイモを販売しよう。適正価格はいくらかJAにきいて調べよう。 ・弁当の販売は難しそう。食品を扱うのは難しいのか。 ・復活DAYに来てくれる人は根尾の良さを知っているの、事前告知の中に根尾 のよさをたくさんいれないといけない。 ・事前告知の発信方法を考えよう。紙のパンフレットチームとインスタチームに 分かれて作業を進めよう。 ・うすずみ公園や道の駅、樽見駅にパンフレットを置いてもらいたいね。 ・森林セラピーはきっと多くの人に魅力的だと思う。まずは誰にお願いすればい いか確かめて、実行が決まったら、それを事前告知に入れるといいね。	・前時までに外部講師に提案した内容が分 かるように、電子黒板に提示しておく。 ・異年齢集団での学びとなるようにグルー プを編成する。対話を円滑にするため に、3人グループを構成する。 ・交流では、ロイロノートを活用し、相互 参照することでグループの意見を随時 共有できるようにする。
終末	4 3でグループ毎に練り直した案を全体にシェアする。 →案は電子黒板上に表示する。 5 4の案をもとに今後の活動を確認する。（グループ代表児童） ・サツマイモ販売 適正価格の確認（JAに） 収益金の活用は先生に相談 ・弁当販売は今回見送る ・事前告知の発信方法 パンフレットチームとインスタチームに分かれる ・うすずみ公園や道の駅、樽見駅にパンフレットを置いてもらう ・森林セラピー実現に向けた外部機関の調査・役割分担（誰がいつ） 6 教師の話 ①ゲストティーチャー…今後の活動への評価、注意点 専門家の視点からのアドバイスやメッセージ ①教師…話し合いの評価、本時まとまった今後の活動の確認	・教師や外部講師は適宜各グループに入 り、問い返しを行う。 ・「案」を「活動」に変えていけるよう教師 が助言する。 ・外部講師の方より、専門家の視点で、活 動を進めて行く上での注意点を話して いただき、アドバイスをいただく。 【評価規準】思考・判断・表現 実現可能性や有効性の視点をもと に、地域活性化について考え、今後 の具体的な活動内容を見いだしてい る。（発言、振り返り）

第7・8・9学年 総合的な学習の時間「かがやき科」 学習指導案

1 単元名・題材名 自分の可能性に気づき、自分を磨き高める「かがやき科」

2 単元について

以下は令和5年度かがやき科の生徒の振り返りである。

自分自身、模索していく中で自分の思うようにいかない部分も多々あり、難しいと感じることもありました。でも諦めずに作品に向き合い取り組み、絵について追求し続けることができました。この1年間を振り返って、美術に対する知識を深めることができたというのもそうだが、物事をする上でも内面的に成長できた部分も少なからずあると感じました。実際に自分が決めた目標に向かって追求し、その中で改善点を出し、取り組みました。1つのことに向かって粘り強く探究する力。そして、状況に応じて機転を利かせながら取り組む力。私はこの学習で大きく2つのことを学びました。これからの生活においても生かしていけることだと思うので、自分に向き合い、自分らしく今後も励んでいきたいです。

生徒の振り返りにもあるように、かがやき科を通して、育成したい生徒の姿は以下である。

- ①探究的な学習を通して、自ら設定した課題を粘り強く自力解決する姿
- ②自分の可能性に気づき、自分を磨き高めることができる姿
- ③自分の夢や目標を定め、実現しようとする姿

本時は、これまで探究してきたうちのほんの1時間である。生徒がこれまでどのようなストーリーで探究してきたのか、生徒がどのような力をつけてきたのか、生徒はこれまでの学びを振り返って仲間や参観者に語る。その声を聞き、「かがやき科」がどんな時間なのか、かがやき科でどのような力を育むことができるのかを、教師、生徒、参観者が共に考え、生徒の生き方や在り方に迫る1時間としたい。

3 生徒の実態

4 本時のねらい

かがやき科が自分にとってどのような学習なのかを考え、語り合うことを通して、自ら設定した問いについて、自分なりの方法で探究し、粘り強く自力解決するかがやき科の学習が、自分を磨き高めていることに気づき、自分の夢や目標、自分の生き方を創ることに繋がっていることを自覚することができる。

5 本時の展開

	学習活動	指導上の留意事項・指導援助
導入	1 本時の課題をつかむ かがやき科の学習は自分にとって、どのような学習か。	これまでの探究の成果を交流するだけでなく、探究してきたことに対する自分の学びについて語ることができるように、教師は生徒の成長の自覚を言語化する役割を担う。
展開1	2 交流会で自分の探究について語る。 【語りの視点】探究的な学習を通して ①「自ら設定した課題」に対して、「何を、どのように」取り組んできたか。【何を、どのように】 ②自分の可能性や自分の夢や目標に「どのように」繋がっているか。【これから】 【話合いの展開】 私はヘアアレンジについて探究してきた。将来の夢である美容師に向けて少しでも知識を身につけることができた。将来のために専門的な知識や技能を身につけることができるのがかがやき科。  私は今年もギターを探究してきた。普通の授業ではギターに触れる機会なんてないし、かがやき科があるから自分がしたいことができると思う。 プログラミングについて取り組んできた。自分がしたいことだけど、これが自分の将来につながっているかは分からない。でも、自分で調べて取り組んできたことは将来、何か新しいことに挑戦したいときにきっと力になる。 【教師の問い返し】探究活動をさらにより良くし、これからの自分に繋げるためには？【これから】	- 生徒が教師が意図する方向へ意識した発言にならないように、教師は板書などしない。 - 生徒の座席を車座に配置することで、お互いに対話しやすい環境を設定する。 - 参観者は質問があればしても良い。ただし、生徒同士との対話が優先する。
展開2	3 本時の学びを振り返り、今後に向けての思いを書く。 かがやき科は自分にとって必要な学習。自分がしたいことは何かを考えるきっかけになるし、取り組んでいる中で、もっとやってみたいと思えることも見つかる。かがやき科発表会では自分の成長を語れるようにしたい。	・別紙：個人のテーマ（問い）一覧参照 7年教室：創作・開発チーム 8年教室：仮説検証チーム 9年教室：課題生成チーム 【評価規準】思考・判断・表現 かがやき科の学習が自分の夢や目標、自分の生き方を創ることに繋がっていることを自覚している（発言、振り返り）
終末		※ピクトグラムは以下より https://www.canva.com/